

# 1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 月山 )

事業所番号	0670102128		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	もも太郎さん 黄金		
所在地	山形市 黄金 81-1		
自己評価作成日	平成 31年 2月 9日	開設年月日	平成 18年 4月 1日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設に入居しても今まで通りの生活を継続できるよう努めている。その為にも入居者1人1人と向き合い、意向を把握しようと取り組みを行っている。毎月、話し合いの場を設け、入居者の状態の変化や意向に沿うにはどうしたらよいか検討している。また、家族部屋もあり、入居しても今まで通り家族と暮らせる居室が用意している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 31年 3月 5日	評価結果決定日	平成 31年 3月 25日

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入浴の後はゆっくり寛ぎ、季節や好物を取り入れた食事を楽しみ、紫陽花見学など外出での気分転換、地域開催の百歳体操では仲間に加わり、一人ひとりがこれまでの生活を継続しながら楽しんで暮らせるように取り組んでいます。毎月利用者の思い・意向に沿った支援について話し合いを持ち、笑顔を引き出し満足して生活できるよう介護計画を作っています。法人理念「自由と家族の絆」のもとスローガンにある「利用者様の思いを真摯に受けとめます」を大切に考え、笑顔の挨拶や目線を合わせた会話・いたわりを持った言葉遣いで接し、利用者が自由に好きなことや出来ることをしながら穏やかに生活できるよう支援している事業所です。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に会社のスローガンを唱和し、意識付けを行っている。また、理念も見えるところに掲げ、常に意識できるようにしている。	職員は接遇にあたり法人スローガンを常に共有し意識しながら、利用者の意思・思いを尊重して自由にそして満足して毎日生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通し、地域の行事に参加している。地域のコミュニティーセンターでの百歳体操や会議に参加した実績もあり、地域との交流を持てる場に積極的な参加をしている。	地区会長や民生委員・地域包括支援センター職員を通して地域情報を得てコミュニティーセンター行事の百歳体操への参加など利用者と一緒に地域と関わっている。見学や事業所行事への協力参加などもあり地域の理解が進んできている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティーセンターでの行事に参加し、施設の事を報告している。見学にも足を運んでいただき、介護の場を実際に見て頂いている。今後は百歳体操を通じ、理解を得ていく取り組みを行ってきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度実施している。地区会長、民生委員、協力施設、地域包括に出席頂き、意見を頂戴している。また、入居者、ご家族様も可能な限り参加して頂き、意見を頂戴している。	利用者状況・事業所活動・転倒事故等について報告し意見やアドバイスをもらっている。地区コミュニティーセンターでの百歳体操の情報や離設に関わる対応などについての助言や意見をもらい運営改善に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月、介護相談員の方に来所して頂き、施設の近況を報告、相談を行っている。生活保護受給者の相談や事故の報告を随時行い、アドバイスを頂き、協力関係を築いている。	地域包括支援センターの生活支援コーディネーターが運営推進会議に出席し、相談や助言をもらっている。また介護相談員の訪問も月1回あり利用者状況の気づきなどの報告をもらい支援に反映させている。生活保護受給者が多いため市担当者とは連絡を密に取り連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	教育委員会を通じ、適時話し合いの場を設けている。改めて見直しを行い、身体拘束が行われていないか確認を行っている。また、研修も行い、各職員がどのようなことが身体拘束に該当するか学習の場を設けている。物理的な事だけでなく、言葉や薬も身体拘束になることを理解し、予防に努めている。	内部研修を行い、職員会議などで話し合いを持ち全員で身体拘束のないケアに取り組んでいる。見守りで転倒や離設事故を防ぎ、言葉遣いや薬の使用など常に身体拘束をしないケアを実践して利用者が自由に生活できるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	教育委員会が本社で虐待防止の研修を受け、施設で伝達研修を行い防止に努めている。どのようなことが虐待になるのか理解し、虐待が起きない環境づくりを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社で勉強会があり、学習する場を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、疑問や不安がないように配慮している。利用開始し、改めて疑問に思うことがあれば随時対応を行うことも併せて説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、来所されたご家族も気兼ねなく意見を出せるように配慮している。運営推進会議にもできる限り参加して頂き、意見を頂戴する場を設けている。	面会に来る家族等も多く、また通院の結果報告など機会を捉えて意見を聞いている。利用者に関することが多く職員連絡ノートや申し送りノートに記し、朝礼時に伝達している。共有しながら出来ることはすぐ対応している。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やカンファレンス等、職員が集まる場で意見を出す機会を設けている。また、意見や提案があればすぐに言えるような関係作りにも取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整える努力している。会議等の話し合いの場でも意見を出せる雰囲気づくりに努め、1人1人の意見を大事にすることでやりがいや向上心が持てるよう配慮している。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会より毎月研修を実施し、学習の場を設けている。また、外部から講師を招くことで、より専門性の高い知識を得る機会を作っている。	毎月の内部研修では歯科衛生士による口腔ケアや介護のコツ・身体の使い方など外部講師を招いての研修も行っている。また法人内専門職研修に参加して職員のレベルアップを図っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	山形県グループホーム連絡協議会に参加し、研修等に可能な限り参加している。その場で意見交換をし、交流を持っている。他事業所の認知症カフェに参加させて頂き、交流の場を持っている。	他事業所の認知症カフェの手伝いや意見交換、研修会等で同業者との交流を通してサービスの質向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族と話し合いをし、現状の確認や入居時に不安がないように配慮している。その際の情報をフェイスシート等を通じ情報共有を行い、安心して利用できる環境づくりに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に家族と話し合いを行い、不安や要望を聞き入れ安心して利用できる関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の話し合いでどのような支援が必要か意見を頂いている。また、実際に本人にも話を伺い、現状を把握し、どのようなサービスが必要になるか検討を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的な介護にならないように常に入居者の意向を聞く姿勢を持つ事を大切にしている。会議等の場でも入居者の意向を聞く姿勢を持つようにと意思統一を行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、ご家族様に施設の様子のお便りを出している。体調不良や事故があればすぐにご家族に報告するようにしている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に馴染みの家具や私物があれば持参いただくようお願いしている。また、友人等の面会も随時受け入れ、関係が途切れないようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士、良好な関係が築けるような席にしている。フロアにソファも用意し、入居者同士座って談話している場面も見られている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した後も、連絡や相談があれば随時対応を行っている。また、郵便物も稀に届くことがあり、同様に対応を行っている。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、カンファレンスを行い、希望や要望の把握に努め、実現に努めている。また、日常的にも会話から意向を掴もうと努力している。	利用者のこれまでの生活背景や出来ることを把握し、毎日の関わりの中で思いや変化を会話や仕草・表情から聞き、汲み取っている。管理者に伝えると共にケース記録に記し、毎月の話し合いにより利用者の意向に沿うプラン作りに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前やご家族様が来所されて際に情報を頂き把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今までの生活歴やカンファ、ケース記録等から情報を聞き出して現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本、3カ月毎にケアプランを見直し、話し合いを行っている。入院や状態の変化があれば適時話し合いを行い、ケアプランを更新し、現状にあったケアの提供に努めている。	本人の思い・意向を大切に介護計画を作成している。毎月検討会議で健康状態の変化や利用者の意向をもとに話し合い、思いに沿った生活が継続できるように3ヶ月毎に見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に日々の生活や気付いたことを記載し、申し送り時を利用し情報共有に努めている。必要があればカンファレンスで取り上げケアプランの見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	地域の理容店より訪問理容を行って頂いている。また、ボランティアの方にも来所頂き、地域資源を有効活用している。			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	月2回、城西医院より往診頂いている。本人の希望によっては主治医を移行せず、今まで通りの病院へ通院できるよう配慮している。	入居の際、24時間連絡可能な医師の往診が定期的にあることを利用者や家族に説明して、全員が往診を受けている。受診結果に変化があれば家族に報告し、職員間では朝礼や申し送りノートで共有して、適切な健康管理を行っている。		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	3月より看護師が配属された。情報を共有し、適切な往診対応や、健康状態の把握に努められるよう連携を取っていく。必要に応じては受診等も検討し、安心した生活を提供できるように配慮していく。			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時には情報提供を行い、治療が円滑に進むよう配慮している。退院時には事前に病院に伺い、現状の把握や情報を頂き、施設に戻っても安心して生活ができるよう配慮している。			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	重度化の可能性がある場合には施設でできることを十分に説明を行い、ご家族様と今後の方針について話し合いを行っている。	入居時に重度化した場合の対応や選択肢を説明し理解を得ている。現在重度化した方はいないが、急変時対応や看取り研修を行いスキルの向上を図り、医師や看護師と連携を取りながら家族の意向に沿えるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル、フローチャートを作成しており、適切な対応ができるようにしている。また、連絡網も用意し、サポート体制も整えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、火災を想定した訓練を実施している。火災だけでなく、地震を想定した訓練も行い、有事に備えている。訓練時には運営推進会議を通し地域の方にも協力を仰いでいる。	避難訓練には利用者も参加し、火災通報装置の使用方法や車椅子での階段移動、避難用レスキューシートの試用などの訓練を通し、反省点や問題点を明らかにして速やかに避難出来るようにしている。また災害対策備蓄品リストに沿って備えを怠らないようにしている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会社の接遇マナーに掲げ、配慮している。また、会議の場を通じ、常に意識するように職員に意識付けを行っている。	過介護にならないように心掛け、出来ることをやってもらった時はありがとうと伝え、出来なかった事が出来るようになった時は称えて喜びを分かち合い、誇りを感じてもらっている。言葉遣いなども職員会議で話し合い、尊敬の念を持ちながら接している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を大事にし、希望や、要望を言いやすい環境づくりに努めている。また、職員も一緒に考え、自己決定ができるように配慮している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースで生活できるように、入居者の希望を伺いながら支援している。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に衣類の希望を聞いたり、爪切を行ったり、身だしなみに配慮している。散髪の希望があれば随時対応している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や好みの料理を提供したりし、楽しみ の1つになるよう配慮している。また、食器の片づけも入居者と職員と一緒にしている。	朝・夕食は食材宅配サービスを利用し昼食は職員が買い物をして、皆で会話をしながら賑やかな食事風景となっている。日々の会話で食べ物を話題にして食べたいものを聞き出し提供するなど、更においしく食べられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の水分摂取量を記録し、適切な水分を摂取できるようにしている。食事形態や量に関しても希望や状態に合わせて提供している。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや介助を行っている。また、月4回歯科衛生士より口腔内のケアと状態観察を行い、助言を頂いている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状態に合わせた排泄用品を使用し、可能な限りトイレで排泄ができるように支援している。毎日排泄チェックを行い、排泄パターンの把握に努め、入居者1人1人に合わせた支援が出来るように配慮している。	自立の方が多く見守りに重点を置き、介助が必要な方も身体状況に応じてトイレでは出来るだけ一人で用を足せるように配慮している。また運動などで筋力強化に努め現状を維持できるよう支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、便秘の予防に努めている。解消しにくい方にはセンナ茶や下剤を服用して頂き、排便コントロールを行っている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴を行う際には声掛けを行い、本人の希望に合わせて入浴を行っている。1人1人ゆっくりと満足した入浴ができることを第一に考え、支援を行っている。	週3～4回を目安に全員が浴槽に入り、歌を歌ったりしながらゆったり温まってもらっている。一人ひとりの意向に合わせて同性介助や、入りたくない時は別の日に変更するなど、無理強いせずにくつろぎの時間となる様に心掛けている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも居室やソファでゆっくり過ごせるよう環境整備している。必要に応じて声掛けを行い、休息をとって頂く等、配慮している。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々のケースファイルに処方箋の情報を入れており、いつでも効果や注意点等確認できるようにしている。状態の変化があれば主治医にすぐに相談、報告するようにしている。			



自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節毎にレクリエーションを計画し、楽しんで頂けるように配慮している。また、生活歴を知ることで個々の趣向品の提供や楽しみとなるような事を提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	デイケアに行かれています方や、家族の協力により外出されている。希望があった際にはご家族に相談しながら外出支援等行っている。施設として季節毎にお花見等外出支援を行い、外に出かけられる機会を作っている。	年間計画を立て、花見で弁当を食べたり紅葉狩りに出かけておやつを食べたりしながら季節の移ろいや開放感を楽しんでいる。家族の協力で外食などに出かける方もおり、今後全員が個別外出の機会を持てるよう検討している。		車輜や交通事情など外出が難しい状況にある事は理解できるが、年間計画と共に日常的に外気に触れる機会を多く持つことに期待したい。
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にお金は預からないようにしているが、お金を持つ大切さを理解し、必要に応じて施設で立替をし、利用料と一緒に支払い頂いている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙等、希望に合わせてやり取りができるように支援を行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて快適に過ごして頂けるように配慮している。装飾も季節に合わせて行い、眩しい時はカーテンを閉める等している。ゆっくりと過ごせるスペースも作り、入居者にとって過ごしやすい環境づくりに努めている。	お茶の時間には皆がフロアに集まりしゃんしゃん体操やテーブルバレーなどの運動で盛り上がり、疲れた時にはソファで横になったりしながら思い思いに過ごしている。利用者同士の相性に配慮した食席や感染症予防薬剤入りの加湿などで、安全で穏やかな暮らしになるよう努めている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士過ごせるよう席を配慮している。ゆっくり過ごせるスペースとしてソファを用意しており、一緒に座って談話して過ごされたり、横になって休まれている場面も見られている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染の家具や使い慣れた物があれば持参頂けるように依頼している。入居後も不足しているものがあれば家族に相談し、居心地のよい環境づくりに努めている。	広い居室にはベッド・クローゼット・ローチェストが備えてあり、本人の好みや安全を考慮して配置している。使い慣れた家具や身の回りの物を持ち込んでもらうよう促し、家族の写真を飾ったりしながら、我が家として安らぎの空間となっている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々のADLの把握に努め、自立した生活が送れるよう配慮している。必要に応じてカンファレンスの際に取り上げ、安全な生活環境、必要な支援を検討している。		